

Title	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 94
Author(s)	
Citation	京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 (1960), 94: 21-26
Issue Date	1960-07-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/186953">http://hdl.handle.net/2433/186953</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No. 94

1960. 6月(7月5日)

### 録 事

6月1日. 豚飼の恒例身体検査が白浜温泉病院で行われたが、酒食をつつしむとすぐ全治する程度のほか全員健康で、とくに異常者はなかった。

6月13日 水族館の模様替、増築案の打ち合せのために、山路委員京都に出張。

6月14日 宮谷事務長、山本技術課長は増築、模様替について詳細に現地の状況調査のために来館。

6月14日 黒田徳米博士は今年度振興会の奨学資金によって呉英の研究をつづけられるよう内定した。

本月上旬より現在水族館の破損箇所の補修、不備、不便な箇所の模様替についての設計の案をねっていたが本月下旬には完了し、7月早々より着工の予定であるが、その間営業を休むことなく工事を行うので多少観客に不便をかけるかもしれない。工事が完了すれば観客の整理も改善され、館内の趣もだいぶ変わるものと思われる。同時に増築工事案も検討をかさねて、最終設計案も近く完成の予定である。

## 業 務 概 況

### ◎ 6月の入場者

区 分	大 人		小 人		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
水族館発売 但人	5487	30015	213	1600	5700	31615
団体	23031	69062	—	—	23031	69062
交通公社発売	7610	27563	—	—	7610	27563
明光バス発売	11852	74027	117	1544	11969	75571
合 計	47980	200667	330	3144	48310	203811
旅 料					0	819

団 体 一般 163組, 学生 17組 合計 180組

### ◎ 6月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	1,155,836	3,539,259
{ 窓 口 売 上	481,107	1,749,187
{ 交通公社クーポン	128,329	478,372
{ 明光バス観光券	546,400	1,311,700
※		
予金・積立金利息	—	232,881
手 数 料	60,347	172,821
絵はがき拂 下	33,110	101,690
パンフレット拂下	11,440	33,690
魚 類 拂 下	200	200
雑 収 入	340	540
合 計	1,261,273	4,081,081
※ 明光バス観光券未収分	大人券 16430枚	
	小人券 141枚	

### ◎ 6月の支出

#### 水族館経費

費 団	金 額	累 計	備 考
人 件 費	167461	371417	期末手当
会 議 費	29700	95737	サマーウェア一世
備 品 費		56300	
消 耗 費	27698	73109	
事 業 費	57388	134388	
維 持 費	6060	13860	
其他諸経費	72481	286158	販賣 宿舍火災保険料他
積 立 金	173239	755826	
合 計	534027	1786795	

# 実験所経費

経 費 団	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	46,471	
奨 学 金	60,000	60,000	黒田徳米氏
備 品 費	32,000	46,220	アジミ伸機
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	—	
役 務 費	1,120	66,220	
合 計	93,120	218,911	

# 伝物館経費

経 費 団	金 額	累 計	備 考
人 件 費	63,130	135,300	期末手当
備 品 費	—	1,200	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	3,980	
合 計	63,130	140,480	

# 堀 時 費

摘 要	金 額	累 計
水族館建築に関する推進費用	28,503	
自抄式プランクton採集機試作費	9,780	
合 計	38,283	85,596

# 支出合計

(今年度累計)

水族館経費	534,027	1,786,795
実験所経費	93,120	218,911
伝物館経費	63,130	140,480
堀 時 費	38,283	85,596
合 計	728,560	2,231,782

# ◎ 6月末現在高

前月よりの繰越	1,316,586
今月の収入合計	1,261,273
今月の支出合計	728,560
現 在 高	1,849,299

# ◎ 前年度との比較

	1959	1958	増 減
入 場 者 数	33022	48310	+ 15288

## 水族館記事

- ◎ タカアシカニは6月に入り、水温の上昇とともに行方が不活発となり餌もとらなくなった。寄生しているヒメエボシは次々と脱落して10日頃にはほとんど宛あたらなくなった。25日に、1月ぶりに餌を約30匹とったが、その後急に弱り、夕刻には死亡した。飼育期間3ヶ月。
- ◎ 22日の大雨で、海水の比重が急に降り、ソウリエビ6、ゴテンアナゴ23個体は一度に死亡。他のエビ類はとくに影響はなかった。
- ◎ N0.35水槽のケエ3個体は16日に手落ちで給水が止まったため死亡。
- ◎ 1月19日以来飼育中のナヌカザメは5月に入ってから餌をまったくとらなかったが、12日、14日に死亡。飼育期間約5ヶ月。
- ◎ エビスタイは白臭病におかされ、硫酸キニーネで処理したが効果なく10日に1個体が死亡、他の2個体を予備水槽に移したがその後死亡。
- ◎ 今月の入槽魚類は集魚灯が始まったので、イサギ、アイゴなどがめだつようになった。他に、アカハタ、ミザタイ、コロタイ、ノミノクサなどが多い。めづらしいものではアカマツカサが14日に1個体、17日に6個体入槽。
- ◎ 6月30日現在、観覧水槽内に飼育の動物は総計169種、822個体以上で、その内訳は次の通り。

ヒドロ虫類	1種、	フジツボ類	2種、	ヒトデ類	4種、
ウミトサカ類	2種、	エビ類	7種、	クモヒトデ類	1種、
ヤギ類	5種、	ヤドカリ類	4種、	ウニ類	9種、
イソギンチャク類	8種、	カニ類	10種、	ナマコ類	7種、
イシサンゴ類	10種、	ニ枚貝類	8種、	ホヤ類	3種、
スナギンチャク類	1種、	巻貝類	11種、	軟骨魚類	3種、
ハナギンチャク類	1種、	アメフラシ類	1種、	硬骨魚類	56種、
ホウキムシ類	1種、	ウミウシ類	2種、	カメ類	3種、
多毛類	2種、	タコ類	2種、		
カブトカニ類	1種、	ウミシタ類	4種、		

# 資 料

- ◎ 6月の気象 (9時観測)  
 南水槽室 (水温比重はN0.25水槽)

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(13)	6	4	3
室 温(℃)	19.2 ~ 24.7 21.7	19.2 ~ 24.1 21.4	21.8 ~ 25.7 24.1
水 温(℃)	19.29 ~ 21.53 20.57	20.49 ~ 23.40 21.55	22.63 ~ 25.29 23.78
比 重(0.15)	22.82 ~ 25.26 23.95	23.97 ~ 25.49 25.03	24.49 ~ 24.38 23.25

販入口

水 温(℃)	19.82 ~ 21.55 20.98	20.67 ~ 24.12 22.38	23.00 ~ 26.01 24.25
比 重(0.15)	22.75 ~ 25.35 24.50	24.47 ~ 25.44 25.24	20.13 ~ 25.32 23.57

- ◎ 今月の魚類死亡状況

今月の魚類の死亡総数は46種、163個体で、全体としてとくに凶立つ種類は  
ゴテンアナゴ、アカハタ、ニザダイ、オニオコゼ、イサギ、ノミノクサ、マダイの  
 仔等である(それぞれ5個体以上死亡)。

1. 白臭病による死亡は24個体、14.7%で、ニザダイ、フエフキダイ、カサゴ  
エビスダイ、アイゴ、ハタ sp.の7種である。
2. 入槽後3日以上飼育した魚で原因不明の死亡は68個体、41.7%を占めてい  
 る。
3. ある程度の不可抗力の事故による死亡は42個体25.8%で、これらのうちには、  
 環境の急変によるゴテンアナゴの死亡、水槽からとび出したタイナンウミ  
ヘビ、マアジ、水が止まったため死亡したクエ等が含まれている。
4. 入槽後3日以内の死亡は29個体、17.8%である。これらのうち外傷を  
 もっているものは少ない。多くはその原因が環境による疲労や環境の変化に  
 よるものであろう。

白臭病による死亡が去年より少ないように思われるのは、とくに給餌の後、数時間  
 以内に残っている餌を完全にとり去っていること、水槽の下から給水し、上から排

水させて水の循環をよくしているためと思われる。購入の際の飼育環境の変化によって起る死亡は、入指後3日以内、7～8日経過して死亡する個体も多いようである。したがって、2の原因不明による死亡の41.7%のうち、その一部は飼育環境になれないため死亡したと考えられる。今後、購入した魚は循環の良い予備水槽に入れて、じゅうぶん慣らした上で観望水槽に移すことが望ましい。

## 来 訪 録

6月7日 全国国立大学事務局長会議が白浜で開催、京大横田事務局長外7名前内へ見学。

6月24日 かつて京大動物学教室の講師をされ、実験所創立に功勞のあった東光治（現・大阪経済大学教授）氏夫妻は40年振りに訪日され、実験所内外を思い出添げに長時間見学された。

6月30日 京大工学部講師東村武信氏は空気中の $C^{14}$ 測定（空気中の $CO_2$ を採取）のため来所、今後毎月毎に来所予定。

昭和35年7月5日 (NO. 94)

編集兼  
発行所

山 路 勇

発行所

瀬戸臨海実験所振興会  
和可山県白浜町  
瀬戸臨海実験所内  
(Tel. 白浜温泉 515)